

# NewsLetter

自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.165,Dec,2020



## 論文初心者がトップジャーナルにアクセプトされるための 3つのSTEP

### ☆推薦文☆

國友耕太郎先生のが BMJ へ通った。Image section への短報だが、内容は地域医療の面目躍如。素晴らしい成果だ。心から祝福したい。2019年7月に投稿し、revisionを6回要求され、2020年8月末にやっとacceptされた。國友先生の動きは早かった。熊本大水害の診療を終えた当日夜中にrevision操作をしていることが時系列から分かった。

白状すると、acceptされるまで、私も少し苦しかった。受かりそうで、受からない状態が1年以上続き、これで落ちたら、國友先生に濟まない。CRSTとして責務を果たせ、少しほっとしている。

國友先生にお目にかかったことはない、お顔を存じ上げない。が、この論文作成を通じて得た友情は永く続くと思う。共に悩み、考え、考え抜いた経験は強い連帯感を生み、記憶は残る。年齢無関係に医学・学問だけで繋がることのできた。CRST 冥利だ。國友耕太郎先生の益々の発展を祈っている。 CRST 代表 松原茂樹

### 国立病院機構熊本医療センター総合診療科 國友耕太郎 (熊本 34 期卒業)

学生時代の成績は 50-70 番で推移し、国家試験の必修問題を 1 日目にして間違ってしまうとヒヤヒヤ(を乗り越えて、青ざめて眠れなかった)したような私が、今回、松原先生の強力なサポートを経て、義務年限期間中に世界 4 大雑誌といわれる BMJ にアクセプトされました<sup>1)</sup>(最終アクセプトは 10 年目になってしまいましたが、提出したのは 9 年目の夏です)。

「論文は書いてみたいけど、どうしたら良いか分からない」という地域医療に携わる先生方の一助となればと思い、この経験を自分なりに一般化してみました。

一経験の私見ですので、偏った内容かもしれませんが、地域医療を学術面でも盛り上げたい先生方の刺激になれば幸いです。



#### STEP 1. 論文を書こうというスイッチを入れること

当たり前だと思われるかもしれませんが、ここが一番重要なポイントだと思います。

地域医療に従事しながら「英語論文書けたら良いなあ、でも近くに指導してくれる人がいないしなあ」と、論文を書くスイッチすら入っていないのに諦めている方はいないでしょうか？(以前の私がそうでした)

一例ですが、私のスイッチが入った瞬間をご紹介します。自治医大の場合は都道府県ごとに専門医取得状況が異なります。義務年限の若手(卒後 5 年目くらいまで)の頃は、どうしても「専門医を取得したい」という気持ちが強いものです。しかし、熊本県における専門医取得は非常に限定されます。そして、専門医取得ができないまま、私は義務年限の後半に突入しました。「このまま義務年限が修了した場合、私の地域医療に何が形として残るだろうか・・・」と考えるようになった時に、ゾクゾクと寒気が走りました。その時に「専門医取得が出来ないのなら、他のことをやろう。論文だったら、CRST もあるし、地域医療にいても出来るはず！よし、地域医療から世界に発信してやる。あわよくばトップジャーナルを狙ってやる」という、私の論文を書こうというスイッチが入りました。(もちろん、目の前の臨床をしっかりやるのが大前提です)

論文は、日々の診療を形に出来て、「患者さんが命がけで教えてくれた事象」を世界に発信できます。もし、以前の私のように、論文を書いてみたいなあと「漠然と」考えているけど結局書いていないままの先生がいたら、まずは明確な「スイッチ」を入れてみてください。

## STEP 2. 日々、症例を探す

「それが出来れば苦労しない」という声が聞こえてきそうです。しかし、STEP1. がクリアできたら、あとは意外と簡単だと思います。

ここでつまづく初心者の先生は「珍しい疾患や病態」に出会った時だけ「これは論文にできる！」と心躍りがちです(私もそうでした)。しかし、実はCommonな病態や疾患でも論文は書けます！実際に今回の症例は、出会ったことがない先生のほうが少ないであろう、胃アニサキス症です。最終的にアクセプトされた論文は当初の形と異なりましたが、最初の投稿理由は「アニサキス本体をエコーで捉えた！」というものでした。胃アニサキス症それ自体は日本ではCommonな疾患です(海外では少ない)が、アニサキス本体をエコーで見たことがある先生は少ないのではないかと思います。

このようにCommonな疾患の非典型例や新たな発見などは論文にできますし、検査機器に限られる「地域医療だからこそ」発見できる事があるはずです。このような事例が、実は日常臨床に埋もれているかもしれません。しかし、STEP1のスイッチが入っていれば、そういう症例を見つけやすくなります。

## STEP 3. CRSTに相談する

論文やる気スイッチが入り、症例を見つけたら、あとは初心者であれば、まずはその道のプロにお願いするのが良いと思います。これはトップジャーナルを目指すのであれば、なおさらです。今回私は、松原先生の強大なサポートを経て、トップジャーナルのアクセプトに至りました。松原先生のEditorへの気遣い、そして我々がどうしてほしいかを的確に伝えるためのカバーレターの書き方など、これは初心者ではできない事でした。(英文校正の会社で書いてもらっても良いのですが、松原先生ほどの思いを伝える文章は書いてもらえないと思います)

最後に、「論文は人間力」が磨かれます。これは松原先生から教わりました。論文を提出する過程において、私が一歩間違えれば即リジェクトされうるミスをしてしまいました。その時、松原先生から「先生の仕事は早いですが、抜けている所が多い。論文は人間力が問われるものだから、一つ一つ丁寧にしようね。」と教えて頂きました。英文を書く能力や読む能力はもちろんですが、臨床でも絶対に必要な人間力をも鍛え直すことができるのが論文作成です！

この3つのSTEPで、日本全国の地域医療から、どんどん世界に発信していきましょう！

謝辞. 細かい点までご指導頂いた松原先生、誠にありがとうございました。

- 1) Kunitomo Kotaro, Matsubara Shigeki. Acute gastric pain after eating sashimi BMJ 2020; 371 :m3730  
<https://doi.org/10.1136/bmj.m3730>

### 地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)

[発行]自治医科大学大学院医学研究科  
地域医療オープンラボ運営委員会  
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)  
<https://grad.jichi.ac.jp/>